

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

「 大自然を満喫!!(#^^#) 」

伊仙町立伊仙中学校
1年 徳永 結人

① 心に残ったこと

ぼくが一番印象に残ったことは、ナイトツアーで、世界で西表島だけに生息するイリオモテヤマネコを見ることができたことです。前日に、野生生物保護センターで、西表島の自然や野生生物について学習しました。イリオモテヤマネコについても、ビデオや講話で学習しました。イリオモテヤマネコは、西表島にしか生息しない固有種で、絶滅危惧種に指定されていることは知っていたため、遭遇する確率が低いことは分かっていました。しかし、奇跡的にナイトツアーで全グループが、その姿を見ることができました。実際にイリオモテヤマネコの姿を見つけたときは、野生のイリオモテヤマネコが今も西表島で暮らしていることを自分の目で確かめることができ、「本当にいた!」という驚きと喜びでいっぱいになりました。

③ 自分の成長につながったこと

ぼくの住んでいる徳之島が世界自然遺産に登録されていたことは知っていたけれど、研修前は、世界自然遺産についてあまり意識していなかったです。何度か訪れたことはあったけれど、今回の研修に行くことが決まってから、徳之島世界自然遺産センターに再び足を運び、予習をしました。世界自然遺産に登録されるまでの道のりや島々の成り立ち、生きものなどについて知ることができました。また、西表島についての展示パネルもあり、予習することができました。研修では、奄美群島の各市町村から生徒たちが集まってきたので、他の島の自然や生きものなどについても学ぶことができました。研修前と比べて、世界自然遺産のことや生きものしたこと、その取り組みなどについてもっと知りたいという気持ちが強くなりました。

② 学んだこと・気づいたこと

西表島の中学生とピナイサーラの滝ツアーへ行きました。マングローブ林をカヌーで進み、森の中を歩いていきました。片道1時間程かけてたどり着いた先に55mから流れ落ちるピナイサーラの滝。その美しさと迫力、たどり着くまでの動植物や雄大な自然に、西表島の自然の豊かさを全身で感じることができました。西表島の中学生との交流やナイトツアー、ピナイサーラの滝ツアーなどの自然体験活動、祖納集落豊年祭などの文化体験活動を通して、美しい自然や希少な動植物、伝統文化を守り、受け継いでいくために、地域の人たちや専門家、行政など、多くの方々が努力していることが分かりました。ぼくの住んでいる徳之島の自然や生きものも、決して当たり前にあるものではないのだと改めて感じました。

④ これから、自分にできること

今回の研修を通して、美しい自然や希少な動植物を守るために、地域の人たちや専門家、行政など、多くの方が努力していることが分かりました。私の住んでいる徳之島の自然や生きものも、決して当たり前にあるものではないのだと、改めて感じました。これまで何気なく見ていた森や海、生きものたちも、未来に残していかなければならない大切な宝物だと思います。そして、自分の行動を見直すことも大事だと思います。ごみを捨てないこと、自然の中ではルールを守ること、生きものをむやみに捕まえたり傷つけたりしないこと、そして、今回の研修で学んだことを家族や友達に伝え、身近な自然に目を向けてもらうことが自分にできることだと思います。そのために、これからも徳之島のこと、世界自然遺産のことを学び続けていきたいです。



初めてマングローブ林でカヌーを漕いだよ!



ピナイサーラの滝に勇気をもらい、川へダイブ!!



水牛車で、初めての由布島へ!景色が凄すぎる!!